

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890200096		
法人名	社会福祉法人 光朝会		
事業所名	グループホームオリンピア篠原		
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原本町3丁目2-4		
自己評価作成日	令和7年3月3日	評価結果市町村受理日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和7年3月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

10年目を迎えたオリンピア篠原は「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、お一人おひとりの「その人らしさ」を大切に、これまで通りの尊厳ある生活を送るお手伝いをさせて頂いている。感染対策など継続しながら、外出の機会を増やしている。また、室内でも季節を感じていただく作品作りに取り組んだり、直接面会を再開し、家族様との外出制限も緩和したことで、これまで通りの繋がりを継続できるような環境を整えている。職員には正職、パート職ともにスキルアップするためユニット研修を行い、知識の向上を図った。チームケアの方向性をカンファをすることで各々の成長をに繋げている。法人内での様々な研修や、外部研修等にも積極的に参加するように促している。オリンピア創設から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を遵守し、これからもより一層の飛躍を目指していく。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業計画・年間ビジョン・月間目標を基に、理念の共有と実践に継続的、具体的に取り組んでいる。法人・事業所として地域交流・地域貢献に注力し、利用者が直接地域と交流できる機会作りを積極的に再開している。日常的な外出・季節の外出・個別外出・家族との外出も再開して。生花を中心とした、家庭的な季節感のある環境づくりを行い、日々の献立作り・調理・後片付け、行事の際の飾り付け・行事食の調理、その他の家事や趣味の継続を利用者と共に行うスタンスを大切にしている。PDCAサイクルに基づいて、職員が参画した丁寧で詳細なケアマネジメントを行い、利用者の意向・生活歴・現状に即して、今まで通りの生活を送れるよう個別支援に取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生活の主人公は利用者ご本人です。今まで通りの生活を送るお手伝いをさせていただきます。」を理念とし、その実現のために「3つの約束」を掲げている。職員は毎日の朝礼時に唱和し、日々のケアの礎としており、共有・実践している。各ユニットの年間ビジョン、月間目標も理念に基づいており、スタッフ全員で話し合って決め、月間予定表に記載し、いつでも確認できるようにしている。	法人の「オリンピアの理念」に地域密着サービスの意義を明示している。「オリンピア篠原の理念」「3つの約束」を各ユニットに掲示し、朝礼で利用者と共に唱和し共有している。毎年、理事長による新人研修・法人研修を通じて、理解を深める機会を継続している。法人理念を基に、事業計画・ユニットの年間ビジョン、月間目標を設定している。年間ビジョンは各ユニットに掲示し、月間目標は日々記録する各種記録への記載により意識付けを行っている。また、「月間オリンピア篠原」にも掲載し、利用者・家族に伝えている。年間ビジョンは、事前アンケートを基に中間期・年度末の年2回、月間目標は、毎月の紙面カンファレンス等で振り返りを実施し理念の実践につなげている。また、理念をもとに職員個々が個人目標を作成し、半期ごとに振り返り、理念の実践に向け取り組んでいる。オリンピア灘グループホームとの合同会議(各リーダー・管理者、ホーム長・副本部長等参加)でも、事業所の課題を理念・基本方針に立ち戻って話し合う機会を設け実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント、児童館、こども園との交流等はコロナ禍で減少していたが感染に気を付け、再開している。児童館で行われた作品展には入居者の作品を展示してもらい、こども園の園児達と、対面交流を再開している。また、施設前で地車や猿田彦の舞を行ってもらうなど地域とも交流している。	自治会・民生委員等地域との日常的なつながりを継続し、地域行事等の情報を把握し、近隣神社の天狗の巡行・地藏盆巡り等に参加している。児童館の作品展への出展・鑑賞、こども園の園児との交流、オンラインコンサートでの交流等を継続し、児童館の夏祭り参加・区民センターでのコンサート観賞・法人主催の「講談の会」等に出かけ事業所・利用者が地域と交流する機会を設けている。法人として、神父による記念講演会・ダウン症理解講座等を開催し、事業所としても、利用者とともに地域のリサイクル活動への協力・地域の介護相談・見学にも随時対応し、地域貢献に取り組んでいる。令和7年、春・秋には事業所への来訪によるコンサートを予定している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方や、入居者、元入居者のご家族のご紹介等で、来られた方に対しては、随時ホームを見て頂き、介護に関する相談や説明する時間を設けている。	/	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定例で2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センターや、民生員、知見を有する薬剤師の方、家族様に参加いただき、月々の様子を報告し、地域の様子等も情報交換している。	入居者・家族・あんしんすこやかセンター職員・地域代表(民生児童委員)知見者(薬剤師)・事業所職員等を構成委員とし、2ヶ月に1回集合開催している。会議ではレジュメを基に、入退居状況・利用者状況・身体拘束、虐待防止委員会報告と、「月刊オリンピア篠原」を配布して事業所の活動状況を説明して質疑応答を行い議事録を作成している。利用者の感想・民生委員からの地域の情報や動向等を運営やサービスに反映している。	ホームページ等により運営推進会議の内容を、公開することが望まれる。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議などで情報交換を行っている。コロナ感染者やノロウイルスが発生した時は、灘区の保健所から感染対策の指導をして頂いた。	運営推進会議にあんしんすこやかセンターの参加があり連携している。市には、運営推進会議の実施状況報告を行っている。報告・相談等があれば、内容に応じて市や区担当者に報告や問い合わせを行い、適正な運営につなげている。区の保健所とは、状況報告・感染症対策への助言や指導・定期的な情報提供を通して連携がある。	

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止の理念を全スタッフが共有するため、研修を実施し、日々のケアに問題がないか等も常日頃から注意している。日中鍵をかけず、自由に入出入りができるようにしており、心理的な鍵もかけないように取り組んでいる。</p>	<p>法人として身体拘束を行わない方針が確立されている。事業所の「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。「身体拘束委員会・虐待防止委員会」を、3か月に1回リーダー会議後に開催している。委員会では「拘束・虐待チェックリスト」を基に拘束事例がない事の確認、年4回職員が実施する「不適切ケアチェックリスト」の集計結果報告等をもとに不適切ケアの未然防止に向けた検討を行っている。委員会内容は、リーダーから各ユニットに口頭伝達している。事業所内「勉強会」(管理者が講師となり、ユニットリーダーが受講)で、「身体拘束」に関する研修(5月)を実施し、管理者が「研修実施記録」を作成している。リーダーは資料を基にユニットで伝達研修を実施し周知を図っている。各ユニットの扉・エレベーター、日中は玄関の施錠を行わず、閉塞感を感じない環境を整備している。</p>	<p>各ユニットでの委員会内容の周知を明確にする工夫が望まれる。</p>
7	(6)		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止を理念の根本とし、研修において定義や関連法、日々のケアについて学んでいる。また、日々のケアにおいて虐待に繋がりそうなことがないか職員間で注意しながら取り組んでいる。</p>	<p>「高齢者虐待防止のための指針」を整備している。委員会は上記と同様に実施している。研修について、5月実施の法人研修(オンライン・参加型研修)を実施し、参加できなかった職員にも資料回覧による伝達研修を実施し周知を図っている。上記研修以外にもユニット研修を実施し、事例検討により振り返る機会を設けている。ユニット内での相談しやすい環境づくりとともに、「紙面カンファレンス」や個別面談等で課題や不安について検討する仕組みがあり、職員の不安やストレスがケアに影響しないように取り組んでいる。また、ホーム長や理事長にも直接相談できる環境を整備している。</p>	

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス研修による権利擁護の研修を受け、制度の概要、利用の仕方を学び、相談があった場合には速やかに支援ができるように関係機関との関係を築いている。現在成年後見制度を利用している方は4名おられる。	権利擁護に関する制度について、上記「身体拘束」研修と同様の方法で10月に実施し、ユニット内で伝達研修を行っている。研修資料は、必要時に閲覧できるよう「ユニット研修」ファイルに綴じ設置している。3月の法人研修でも学ぶ機会があり、管理者が参加を予定している。現在、制度利用の事例があり、金銭管理資料の提供・状況報告等、制度利用への協力や支援を行っている。今後、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が窓口となり、行政書士と連携して支援する体制がある。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には自宅を訪問したり見学を兼ねて来所して頂いている。契約に関することについて十分に時間を取り説明し、理解・納得して頂いた上で契約をしている。また、改定等の際にも十分に時間を取りご説明させていただいている。	入居相談や入居希望があれば、見学時にパンフレット・料金表等を用いてサービス内容や料金について説明している。契約前には管理者・リーダーが自宅訪問し、入居後に望まれる暮らしについて聴き取りを行い、事業所での生活について具体的に説明している。契約時には、管理者が契約書・重要事項説明書・指針・同意書等を基に説明し文書で同意を得ている。特に、重度化・終末期の対応については、指針に沿って詳細に説明し、理解と納得を得ている。契約内容改定時には、変更部分の新旧対照表を作成し、同意書で同意を確認している。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見交換を行っている。参加されていないご家族様には月刊オリンピア通信を発行し、ご家族に施設の様子をお伝えしている。また、面会時にも意見や要望を聞ける環境を整えており、ご家族から頂いた意見は、職員がすぐに対応できるよう、連絡ノートでの回覧により周知している。	家族との玄関ホールでの面会を再開し、面会・来訪・電話連絡時等に近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。「月刊オリンピア篠原」に写真を多数掲載し、SNS等を活用して利用者の様子等を伝え、家族の意見・要望が出やすいよう工夫している。家族から把握した意見・要望は「申し送りノート」で共有し、個別に対応している。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、職員や外部者に意見を表す機会も設けている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見やチャレンジを積極的に採用している。職員は日常的にリーダー、管理者に相談できる形がある。また紙面カンファレンスを定期的を実施したり、ユニット毎のグループラインを利用して、ストレスを感じている職員をフォローし、応援支援している。	月に1回、各ユニットで「紙面カンファレンス」を実施し、利用者個々のケアや業務等について、職員一人ひとりが意見や提案等を記載している。ユニットリーダーが職員の意見を集約し、各項目に決定事項を赤字で記載し、職員間で共有している。また、ユニットリーダーが毎月個人面談を行い、職員間の意見等を個別に聞く機会も設けている。「居心地よくしようノート」を活用し、職員の気づき等を自由に記載し、環境整備や業務改善につなげるユニット独自の取り組みもある。グループホーム灘と合同で「リーダー会議」を月1回実施し、職員の意見・提案をサービスや運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では職員一人ひとりの目的や目標を明確にし、各々のチャレンジが評価に直結するよう自己評価、人事考課という評価制度を導入している。また、ユニットリーダーは定期的に個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験、能力に合わせて、新人研修、リーダー研修など研修制度がある。ユニット内で研修を行い、スタッフ同士が切磋琢磨してチームの向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模特養の運営推進会議のメンバーとなり、情報交換を行い、外部との交流やネットワークを築いている。		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、入居者様の立場に立って、入居前・入居時に管理者とリーダーで面会に伺いご本人、ご家族の思いをお聴きし、安心して新生活が迎えられるよう配慮している。見聞きした情報は、職員間で共有し、信頼関係の構築が早く出来るよう準備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族との面談や見学の場を設け、実際のケアを見ていただき、不安や要望などをお聴きし、把握している。ご家族の思いをしっかり受け止め、信頼関係の構築の上、入居していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1週間程度は24時間シートを活用し、ご本人の様子をしっかりと見守りし、直ぐに手を付けなければいけないケアを考えている。ご家族の不安等もお伺いし、その時に必要な支援を見極めて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生活の主人公は入居者であり、職員は生活のお手伝いをさせていただく。」という理念のもと、お互いが支え合い、時には入居者様から生活の知恵などを教えて頂きながら、共に生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「今まで通りに誇りを持った生活を送って頂く」という理念のもと、電話やメールを使って随時情報を発信し、ご家族の協力が必要であることをお伝えし、今までの生活を教えて頂き、ご本人を支えている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係は面会やお手紙のやり取り、電話を掛けるなどして、これまで通りのつながりを大切にしている。日々の外出の再開でお買い物や近所の美容室へ出かけていく方もいらっしゃる。	家族や、家族の了承を得て友人・知人との玄関ホールでの面会を再開し、馴染みの人との関係継続を支援している。事業所として日々の外出も再開し、馴染みの店での買い物や美容室へ出かけている。家族との外出・一時帰宅・外食も再開し、馴染みの人や場所との関係継続の機会になるよう支援している。また、電話・手紙・はがきの取次ぎ等での関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、お互いが助け合い、支え合えるようお手伝いさせて頂いている。入居者様同士で相談し、作りあげていく生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切に、サービス利用終了後も、そのご家族や知人の方のサービスについて、相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴シートを家族様に記入して頂いたり、日々の生活の中での会話や表情などから不安や不満など、聞き取り、ご本人の希望や思いを汲み取るよう努めた。室内でも気持ちよく過ごして頂けるよう、体操や趣味の色塗りなど日々の暮らしを楽しみに繋げている。散歩や近所の買い物、花を見に行くなど外出の楽しみも増えている。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、家族記入の「生活歴シート」を活用し、「人生史」・「好きなもの・嫌いなもの(食べ物・飲み物・スポーツ・家事・手作業等)」等を把握している。入居後に把握した情報は、「24時間シート」・各種センター方式の「アセスメントシート」に記録している。日々のコミュニケーションの中で把握した新しい情報があれば、「申し送りノート」・「紙面カンファレンス」で共有し、定期的に更新する「アセスメントシート」にも記載し、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情・反応等から汲み取ったり、家族からの情報を参考に把握に努めている。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にするため、ご本人(センター方式によるアセスメント)、ご家族(入居時生活歴シート)から情報収集を行っている。これらを基に、生活スタイルの把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、お一人おひとりの生活状況・心身状況など新しい発見や些細な変化も正確に把握できるよう努めている。また、全職員が申し送りノートを活用し情報を共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺い、本人の強み、困り事などを見極め、ご本人の望むケア実践を目指すため、チーム全体でケアについて考える機会を設けている。ユニットメンバー全員で3ヶ月毎に見直しを行い、現状に即した介護計画をチームで作成している。	家族記入の「生活歴シート」・センター方式の各種「アセスメントシート」・「24時間シート」等をもとに、初回の介護計画を作成している。「ケアプランシート」に介護計画のサービス内容の番号を付けて介護計画の周知を図り、介護計画に沿って実施したサービスを記録している。入居者の状況や生活の様子は、iPadの「ケア記録アプリ」に詳細に入力している。毎月の「紙面カンファレンス」で入居者のケアについて検討し、「アセスメントシート」で再アセスメントを、「モニタリング表」でモニタリング評価を行っている。必要時は随時、定期的には3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画見直しの際は、「サービス計画書評価」でのモニタリング評価を、センター方式の各種「アセスメントシート」再アセスメントを行い、「リスク予測シート」「ケア観察シート」「24時間シート」も作成し、「ケアプランカンファレンス」を実施している。カンファレンス議事録には、利用者・家族の意向や主治医等関係者の意見、前回のケアプランからの考察、ケアプランの指針を記録し、「介護計画」の見直しに反映している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりの日々の生活の様子を「ケア記録アプリ」に入力し、記録している。全職員が関わり、記録の大切さを認識し、入居者の暮らしの様子がわかる記録を心がけた。その中でも特に必要な事柄は申し送りノートにも記録し、全職員で情報を共有し実践に活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、しっかり話し合いの場を設けている。ご本人にとって生活しやすい環境を整えるようにしている。看取りや重度化に関しても医療との連携を図り要望に応じている。また、住み慣れた地域で生活をしていけるように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理学療法士、看護師、歯科医などと連携して生活支援をしてる。こども園との交流や児童館で開催された作品展に、作品を出展し交流を続けている。散歩等で出た際は近隣の方々と挨拶を交わす間柄になっている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定し、受診していただけるよう支援している。入居後も本人、ご家族の意向により主治医を変更することがある。かかりつけ医への情報提供をしっかりと行い、連携を取るようにしている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。入居前のかかりつけ医の訪問診療・通院受診を継続することも可能である。事業所では、協力医療機関による内科・歯科の定期的な訪問診療、必要に応じて皮膚科・眼科・耳鼻科の往診等が受けられる体制がある。訪問看護との医療連携体制もある。通院に家族が同行する際も、また、職員が通院介助を行う時も、バイタル表等書面で情報提供し、医療機関と連携を図っている。通院・往診等の内容はiPadの「ケア記録アプリ」と、「往診記録」・「通院記録」等で共有している。歯科医・歯科衛生士等による口腔ケアへの取り組みは、個別に訪問診療記録を作成している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の往診時に来訪する看護師に適宜相談等を行い対応をとっている。入退院情報等も随時連絡している。また個別に訪問看護が入る時には、ケアなど一緒に行ってご本人をサポートしている。	/	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院にホームでのご様子等を情報提供し、共有している。また、定期的にご家族や、病院に電話連絡し、早期退院に繋げている。退院時には、医療機関、ご家族とのカンファレンスの場を持ち必要な対応方法等の確認を行い、安全安心に暮らしていただけるよう努めている。ご本人の状態、家族様の希望を伺い、帰所が困難な場合は、別の施設への入居をサポートさせて頂いた。	入院時は「医療連携サマリー」・「薬事情報」・「1ヶ月間のバイタル表」等で情報提供している。入院中は、家族・医療連携室と情報交換を行い、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスは必ず開催を依頼して参加し、現状把握・退院後の支援方法等の検討を行っている。退院時は「看護サマリー」「診療情報提供書」等の提供を受けて回覧により共有し、退院後の支援方法・介護計画の見直しを検討している。入院中の経過等は、「申し送りノート」で共有している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明している。その後もその都度状態に合わせて、ご本人・ご家族のご意向を伺うよう随時話し合いの場を設けている。その上で、必要な医療機関との連携を取り対応し、安楽に過ごして頂けるよう支援を行っている。	入居時に重度化・終末期に向けた事業所の方針を、「重度化した場合における対応に係る指針」を基に説明し同意を得ている。また、入居時に口頭により意向を確認するとともに、体調・状態の変化に応じて家族と話し合いの場を設け意向を確認している。終末期を迎えた段階で、家族に看取り介護の希望があれば、看取り介護に向けたカンファレンス「看取り介護開始にあたって」を開催し、看取りに向けた計画書を作成し、主治医・訪問看護師・介護職・家族等が連携して支援に取り組んでいる。家族対応や支援についての経過は、iPadの「ケア記録アプリ」で共有している。看取り介護開始時には、家族に「これからの過ごし方について(リーフレット)」を提供し、家族の不安軽減に努めている。看取り介護後に、事前配布の「看取りケア確認シート」を基にデスカンファレンスを実施し、次の看取り介護に反映できるよう取り組んでいる。ユニット研修で資料研修により看取り研修を実施している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡・報告体制を全職員が解るよう連絡先を張り出している。安全確保を最優先にし、その後の対応は指示の下に行う事の周知を徹底している。判断を誤らないよう、ホーム長、管理者とリーダーは情報共有を行っている。	/	
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成、研修・訓練・昼夜を想定した消防避難訓練を実施し、それぞれの対応の仕方を身につけている。全スタッフが確認できるよう文書にて回覧し、周知徹底している。また地域の自治会との連携を図り、災害発生時にはお互いに協力が得られるようにしている。またホームで食料や水の備蓄を準備している。	令和6年度は、5月に昼間想定で、11月に夜間想定で、火災時の消火・避難訓練を可能な利用者も参加して実施している。実施後に「自衛消防訓練結果報告書」を作成し、欠席者には報告書を回覧し共有している。運営推進会議を通じて、民生委員等に災害時の協力依頼を行っている。BCPを策定し、令和6年8月に台風、令和7年2月に地震等防災研修を各ユニットで実施し、欠席者も資料回覧により共有している。BCP訓練は令和7年3月に予定している。備蓄リストを基に、3～5日分程度の非常用食料と備品等を各ユニットで備蓄し、ユニットリーダーが半年に1回確認し管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践するため「敬語でお話する」「尊厳ある生活のお手伝いをする」という約束事を職員が朝礼で唱和し、徹底するようにしている。尊厳とプライバシー考え方をスタッフ間で研修をしている。	「法人理念」「3つの約束」等に「敬語」「尊厳保持」について明示し、各ユニットへの掲示・毎日の唱和等で、人格尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応等について共有と浸透を図っている。法人研修やユニット研修でも、各種研修テーマに取り入れて理解を深め、意識向上につなげている。身体拘束・虐待防止委員会活動や、年4回実施する「不適切ケアチェックリスト」を活用し、各職員が振り返る機会を設け意識付けを行っている。「月刊オリンピア篠原」等の写真・映像等の使用について、契約時に個人情報使用同意書で同意を得ている。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、入居者様には自己決定していただける依頼形でのお声かけを心掛けている。家事や外出といった日々の活動も、こちらからも提案し、ご本人に選択して頂けるように努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人理念の基、1日の予定は会話の中から話し合っ決めてるようにしている。お一人おひとりの生活のペースに合わせ、希望に添った支援を心がけている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類はご本人に選んで頂けるようお手伝いしている。今まで通りのその人らしいスタイルを大切にしている。外出や行事の際は化粧をしたりおしゃれを楽しんで、その人らしさを継続できるようお手伝いしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの作成から食事の準備、片付けまでを入居者の皆様が協力しあい、料理に取り組んでいる。季節の食材を取り入れながら、行事食等、「食」からも季節を感じて頂いている。また、「食事の時間は心が開く時」ということを全職員が理解し、入居者様と一緒に食事をする時間を大切にしている。	各ユニットで毎食手作りの食事を提供し、献立の作成・食事の準備・片付け等、利用者が得意分野に参加できるよう取り組んでいる。献立に利用者の希望・季節感・行事食・イベント食等を取り入れ、法人の管理栄養士が栄養バランス等を確認・助言している。ペースト食等利用者個々の嚥下状態等に応じた食事形態に対応している。利用者・職員と一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しむ時間を大切にしている。正月・バレンタインデー・イースター・ハロウィン・クリスマス等、多様な行事食・イベント食の機会を設け、利用者も飾り付けやテーブルセッティング等の準備段階から参加している。おせち料理やクリスマスのオードブル等は、デリバリーを活用し変化を楽しむ機会も設けている。また利用者の希望に応じて、個別の外食支援を再開している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者様と一緒に食事をすることによって食事、水分量と共に好み等を把握している。体調に合わせたものになるようにし、健康面も考慮している。栄養面は法人内の栄養士にアドバイスを求めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、衛生面だけでなく、身だしなみの部分も含め、食後の口腔ケアを実施している。定期的な歯科往診が受けれる様、フロア全体で取り組んでいる。歯磨き指導など日々のケアに活かしている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターン・習慣をケア記録アプリに記録している。ご本人の自尊心に配慮し、極力トイレでの排泄を促し、失敗を減らせるようにケアを行っている。紙パンツ等の使用をできるだけ減らしていく努力をしている。	iPadの「ケア記録アプリ」の排泄記録で利用者個々の排泄状況・排泄パターンを把握し、極力昼夜ともに布下着でトイレでの排泄を支援している。介助方法や排泄用品の使用についての検討は、基本的には「紙面カンファレンス」で行い、状況や必要に応じて「排泄管理表」で現状把握して検討し、現状に適した支援につなげている。利用者のプライバシー・羞恥心等への配慮については、周知されている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において食事のメニュー、水分量を工夫し便秘予防に努めている。便秘傾向の方は特に、水分摂取が十分に行われるよう注意している。また、体操等運動や入浴時の腹部マッサージでも便秘が解消されるように努めている。慢性的な便秘の際は主治医に相談し指示を仰ぐこともある。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの習慣や希望に応じて、入浴日は固定せずに入っている。入浴中は安全に配慮しながら、その方がリラックスし満足を得られるように、ゆったりと入っていただけるよう支援している。希望者には馴染みのシャンプーやリンス・クリームを使用している。	入浴日は固定せず、利用者の習慣や希望に応じて、個々にそった入浴支援を行っている。一般浴槽の個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、利用者個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。身体状況等により浴槽での入浴が困難な場合は、シャワー浴・足浴・清拭等に対応している。入浴拒否があれば日時の調整・対応職員の変更等を工夫し、同性介助の希望にも対応している。実施状況を「入浴表」で確認しながら、週2回の入浴が確保できるよう努めている。ゆず湯・菖蒲湯・みかん湯等の機会を設け、希望者には好みのシャンプー・リンス・クリームを使用する等、入浴がより楽しめるよう支援している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調や、生活リズムを大切に、ホームとしての就寝・起床時間は設けていない。夜間眠りにくい時には眠ることにこだわらず、ご本人のペースで休んでいただけるようにスタッフが一緒に過ごすこともある。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は毎回処方内容を確認し、変化があった際は内容を申し送りノートに記入し、最新のお薬リストで全職員が確認できるようにしている。薬の内容や飲み合わせの相互作用等、可能性のある副作用を理解し、安全な服薬支援に努めている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのこれまでの生活歴を伺い、入居者様が中心となって生活を送っていただけるよう、家事や様々な事柄を分担していただいている。皆様が自然と助け合い生活が送られている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会時の外出や外食は制限なく行っている。日々の外出は「出かけた」と仰る時に、その都度外出して頂けるように努めている。近隣への外出や玄関前等で外気・季節を感じていただいている。日々の会話の中で出てきた行きたい場所、馴染みの場所、思い出の場所等はスタッフが聴き止め、実現できるようスタッフ間で共有している。	日常的に近隣への散歩に出かけ、希望に応じて買い物・喫茶・外食に個別やグループで出かけられるよう外出支援を行っている。外出行事として、初詣、法人が企画する講談の会やコンサート、地域のコンサート、出展した作品展、桜・紫陽花・紅葉鑑賞等にも出かけている。個別の希望に応じ、2泊3日の沖縄旅行に職員も同行している。家族との外出・外食も再開している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご利用者ごとにご家族とも相談し、方法を決めている。ご本人が支払いを行うということは、重要な社会参加につながるという事を理解して支援に努めている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、個人の携帯電話やホームの固定電話で直接お話をさせていただいている。年賀状やお手紙のやり取りができるように今まで通り支援しており、お手紙は書きたい時に対応出来るように準備している。		
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家としてとらえ、共用スペースには季節感を大切に花や写真などを飾っている。また、季節を感じる作品やリビング自体のレイアウトを変更し、居心地が良い空間となるようにした。また、入居者様同士の会話が弾むよう随時席替えをするように工夫している。	各ユニットを一つの家として捉えた共用空間は明るく開放的で、家庭的な温かみを感じられる。テーブル席・ソファを配置し、思い思いの場所で落ち着いて過ごせる環境である。観葉植物や季節の生花を飾り、七夕・ハロウィン・クリスマス等の季節や行事に因んだ飾り付けを行い、利用者が日常生活の中で季節感が感じられるよう配慮している。アイランドキッチンの設置があり、調理の音や匂いから家庭的な雰囲気が感じられる。利用者の得意や好みに応じて、調理・後片付け・洗濯物たたみ・洗濯物干し・玄関前の掃除・廃品回収の手伝い・観葉植物の水やり等に参加し、生活感を感じながら生活リハビリにつながるよう支援している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士や一人でもゆっくりとくつろげるよう、リビングから見えにくい場所にもソファを設置したり、自由に居室を訪問して、語り合ったり出来るようにしている。	/		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通りの生活を送って頂くため、馴染のある家具をもって来て頂いたり、お好みの家具や趣味の物品を持参して頂けるよう、ご家族と相談している。自室は、居心地よく安心して暮らせる環境になるようにお手伝いをしている。	居室に洗面台・ベッド・クローゼット等が設置されている。箆笥・テーブル・椅子・テレビ・仏壇・位牌・写真・電子ピアノ等、使い慣れた家具、大切にしている物、趣味の物等が持ち込まれ、居心地良く安心して暮らせるよう支援している。居室担当職員が入居者・家族と相談しながらコンセプトを決め、利用者と一緒に随時衣替え・物品補充を、また、週1回定期的に掃除・リネン交換等を行い、自立支援に向け取り組んでいる。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じてお料理等の家事に限らず、趣味や得意な活動ができるように提案したり、促したりし、お一人おひとりが楽しみながら、自立した日々を送って頂けるように努めている。時には自室でゆったりと本を読まれたりと、自分の時間を大切にしている。	/		